

平成14年度

更埴市埋蔵文化財調査報告書



2003

長野県更埴市教育委員会

平成14年度

更埴市埋蔵文化財調査報告書

2 0 0 3

長野県更埴市教育委員会



更埴市の位置

例 言

- 1 本書は、更埴市教育委員会が平成14年度に実施した埋蔵文化財の調査報告書である。ただし、整理報告作業の関係上、平成15年1月末までに実施した調査を収録した。
- 2 調査は、更埴市教育委員会生涯学習課が主体となり、文化財係が担当した。

更埴市教育委員会事務局

教育長	下崎文義
教育次長	松下 悟
生涯学習課長	柳原康廣
文化財係長	矢島宏雄
文化財係	小野紀男

- 3 調査は、文化財係担当職員及び森將軍塚古墳館学芸員が当たり、調査員・作業員を募り調査を実施した。
- 4 本書は、各調査担当者が執筆して作成した。発掘調査のうち、規模の大きなものについては本書と別冊で報告している。
- 5 本書に掲載した位置図は、特にことわりがない限り、更埴市都市計画基本図を2分の1に縮小し5,000分の1で掲載した。
- 6 本書中の方位は真北を示している。
- 7 各調査の出土遺物・実測図・写真等の全ての資料は更埴市教育委員会が保管している。なお、資料には各調査ごとに調査記号を付し、保管されている。

目 次

例言・目次

平成14年度埋蔵文化財調査概要	1
1 雁塚遺跡 発掘調査	6
2 城ノ内遺跡 発掘調査	11
3 五量塚古墳 発掘調査	25
4 屋代清水遺跡 発掘調査	27
5・6 整理調査	32
5 屋代清水遺跡 6 大塚遺跡	
7・8 試掘調査	35
7 田端遺跡隣接地 8 大池南遺跡	
9～36 立会調査	41
9 小島遺跡 10 屋代城跡 11 松ヶ崎遺跡 12 大池南遺跡	
13 大塚遺跡 14 大宮遺跡 15 屋代清水遺跡 16 武台遺跡隣接地	
17 更埴条里水田址 18 大塚遺跡 19 更埴条里水田址	
20 倉科水田址 21 更埴条里水田址 22 大池南遺跡	
23 大境遺跡 24 稻荷山城跡 25 中田島遺跡 26 武水別神社遺跡	
27 屋代城跡 28 屋代清水遺跡 29 小坂東遺跡	
30 地之日遺跡 31 坪山遺跡 32 一丁田尻遺跡 33 五輪堂遺跡	
34 一丁田遺跡 35 生仁遺跡 36 地之日遺跡	

平成14年度埋蔵文化財調査概要

今年度実施した発掘調査は4件であり、調査件数、費用とも前年並みであり、開発事業に伴う調査は落ち着いた傾向にある。民間の開発事業に伴う発掘調査を1件、公共事業に伴う発掘調査を2件実施している。民間の開発事業に伴う発掘調査は平成9年度以来、実に5年ぶりの調査である。

民間事業では、工場建設に伴う城ノ内遺跡の発掘調査がおこなわれた。調査面積は200㎡と狭い面積であったが、古墳時代～平安時代にかけての住居跡が検出されている。

昨今の不況により、民間の開発事業は全体的に落ち着いた状況にあるが、一部に活発化の動きも認められる。特に商工業施設の建設に動きが起き、今年度は3件の埋蔵文化財保護協議をおこなった。

公共事業では、まず、(仮称)市民公園建設に伴う雁塚遺跡の発掘調査がおこなわれた。市内では調査例の少ない縄文時代早期の土器片や石鏃などが出土している。平成15年度に整理作業を実施し、報告書を刊行する予定である。

水路建設に伴う屋代清水遺跡の発掘調査では、弥生時代前期～中期の土坑などを検出した。平成14年度に実施した科野の里ゲートボール場建設に伴う発掘調査地に隣接する地点であり、検出した土坑の多くが再葬墓になるものと考えられる。また、土偶なども出土しており注目される。調査は平成15年度以降も継続して実施する予定である。

市内に多数ある古墳の保護と活用を目的とした発掘調査を、国及び長野県の補助を受けて今年度から平成18年度までの計画で開始した。今年度は、長野市との境に位置する五重塚古墳の発掘調査を実施した。古墳は直径30mを超える市内では大形の円墳であり、突出部を持つ可能性が指摘されている。また、埴輪の出土があり注目される。調査は平成15年度も引き続き実施され、古墳の補足調査及び、周濠に存在する旗塚と呼ばれている盛土の調査をおこなう予定である。

平成14年度に実施した、科野の里ゲートボール場建設に伴う屋代清水遺跡の発掘調査は、今年度整理作業をおこなった。土器棺再葬墓などが検出され、注目される調査であったが、整理作業により総数15点に及ぶ敷面付土器・敷面土偶が出土していたことが明らかとなった。また、9月～11月まで飯田市上郷考古博物館企画展に資料の一部を貸出・展示した。

長野県埋蔵文化財センターによって平成12年度からおこなわれている国道18号坂城更埴バイパス建設に伴う発掘調査は、今年度、東条遺跡及び東・西中曾根遺跡を中心に行われた。東条遺跡では平安時代の住居跡など、東・西中曾根遺跡では弥生時代後期～古墳時代の住居跡などが検出されている。出土遺物も相当量が出土しており、その成果が期待される。

更埴市及び埴科郡戸倉町、更埴郡上山田町の1市2町はかねてより、市町合併に向けて協議をおこなっていたところであるが、平成15年3月の議会により合併が正式に議決され、平成15年9月1日に千曲市として発足する見通しとなった。このため、9月以降、新たな人員・体制により文化財保護行政が推進される予定である。

平成14年度調査一覧表

番号	遺跡名	所在地	原因事業	原因者
発掘調査				
1	厩塚遺跡	桑原	公共事業＝(仮)市民公園建設	更埴市(生活環境課)
2	城ノ内遺跡	屋代	民間事業＝工場建設	長野電子工業㈱
3	五重塚古墳	土口	学術調査＝範囲確認調査	更埴市(森将軍塚古墳館)
4	屋代清水遺跡	屋代	公共事業＝水路建設	更埴市(農林課)
整理調査				
5	屋代清水遺跡		公共事業＝屋内ゲートホール場建設	更埴市(体育課)
6	大塚遺跡		公共事業＝屋代中学校体育館建設	更埴市(教育総務課)
試掘・確認調査				
7	田端遺跡隣接地	八幡	公共事業＝防火水槽建設	更埴市(消防本部)
8	大池南遺跡	八幡	公共事業＝大池市民の森整備事業	更埴市(農林課)
立会調査				
9	小島遺跡	小島	公共事業＝水路建設	更埴市(建設課)
10	屋代城跡	小島	公共事業＝市営住宅建設	更埴市(建設課)
11	松ヶ崎遺跡	屋代	民間事業＝仮設工場建設	長野電子工業㈱
12	大池南遺跡	八幡	公共事業＝屋外炊事場建設	更埴市(生涯学習課)
13	大以遺跡	打沢	公共事業＝水路建設	更埴市(建設課)
14	大宮遺跡	雨宮	公共事業＝歩道建設	更埴建設事務所
15	屋代清水遺跡	屋代	公共事業＝水道敷設	更埴市(体育課)
16	武台遺跡隣接地	小島	公共事業＝水路建設	更埴市(建設課)
17	更埴条里水田址	屋代	公共事業＝水路建設	更埴市(建設課)
18	大塚遺跡	屋代	公共事業＝ハンドボールコート造成	更埴市(教育総務課)
19	更埴条里水田址	屋代	公共事業＝歩道建設	更埴建設事務所
20	倉科水田址	倉科	公共事業＝道路建設	更埴市(建設課)
21	更埴条里水田址	森	公共事業＝道路建設	更埴市(建設課)
22	大池南遺跡	八幡	公共事業＝大池市民の森整備事業	更埴市(農林課)
23	大境遺跡	屋代	民間事業＝倉庫建設	オリオン機械㈱
24	稲荷山城跡	稲荷山	公共事業＝水路建設	更埴市(建設課)
25	中田島遺跡	屋代	公共事業＝道路建設	更埴市(建設課)
26	武水別神社遺跡	八幡	公共事業＝水路建設	更埴市(商工観光課)
27	屋代城跡	小島	公共事業＝急傾斜地崩壊対策事業	更埴建設事務所
28	屋代清水遺跡	屋代	公共事業＝駐車場造成	更埴市(体育課)
29	小坂東遺跡	桑原	公共事業＝水路建設	更埴市(建設課)
30	地之目遺跡	屋代	公共事業＝駐車場造成	更埴市(政策推進課)
31	坪山遺跡	八幡	公共事業＝道路建設	長野地方事務所
32	一丁田尻遺跡	屋代	公共事業＝駐車場造成	更埴市(政策推進課)
33	五輪堂遺跡	屋代	公共事業＝水路建設	更埴市(建設課)
34	一丁田遺跡	屋代	公共事業＝道路建設	更埴市(建設課)
35	生仁遺跡	雨宮	公共事業＝果樹ため池等整備事業	長野地方事務所
36	地之目遺跡	屋代	公共事業＝駐車場造成	更埴市(政策推進課)
長野県埋蔵文化財センター				
37	東条遺跡ほか	八幡	公共事業＝国道18号バイパス	国土交通省

調査期間	面積	費用	備考
H14・4・24～5・8 6・3～8・29	3,000㎡	8,101,689円	平成15年度整理
H14・7・5～7・27	200㎡	1,600,000円	
H14・8・26～9・14	100㎡	2,500,000円	
H14・9・17～10・17	100㎡	1,197,888円	平成15年度整理
H14・6・3～H15・3・28		851,562円	
H15・1・31～3・28		233,100円	
H14・8・12		重機負担	
H14・10・29～11・1		414,726円	
調 査 結 果			
H14・5・10	掘削60cm	遺構・遺物なし	
H14・5・22	掘削160cm	遺構・遺物なし	
H14・7・2	掘削55cm	遺構・遺物なし	
H14・7・5	掘削60cm	遺構・遺物なし	
H14・7・15	掘削40cm	遺構・遺物なし	
H14・8・1	掘削80cm	遺構・遺物なし	
H14・8・19	地表下100cmより包含層確認	遺構なし	
H14・8・23	掘削80cm	遺構・遺物なし	
H14・9・13	掘削40cm	遺構・遺物なし	
H14・9・13	盛土施工	掘削なし	
H14・9・20、11・13	掘削40cm	遺構・遺物なし	
H14・10・19	掘削80cm	遺構・遺物なし	
H14・10・22	掘削30cm	遺構・遺物なし	
H14・10・30、31、11・18	掘削20cm	遺構・遺物なし	
H14・10・31	掘削50cm	遺構・遺物なし	
H14・11・6	掘削20cm	遺構・遺物なし	
H14・11・8	掘削30cm	遺構・遺物なし	
H14・11・18	掘削なし		
H14・11・18	掘削なし		
H14・12・3	盛土施工	掘削なし	
H14・12・3	掘削40cm	遺構・遺物なし	
H14・12・4	盛土施工	掘削なし	
H14・12・16	掘削20cm	遺構・遺物なし	
H15・1・9	盛土施工	掘削なし	
H15・1・14	掘削40cm	遺構・遺物なし	
H15・1・17	掘削30cm	遺構・遺物なし	
H15・1・23	掘削300cm	遺構・遺物なし	
H15・1・23	盛土施工	掘削なし	
調 査 結 果			
H14・4・15～12・20	10,000㎡	住居跡等多数出土	



第1図 更埴市川西地区調査位置図 (1 : 25,000)



第2図 更埴市川東地区調査位置図 (1 : 25,000)

1 雁塚遺跡 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査道跡名 カラス 雁塚遺跡 (市台帳No.67調査記号 KLZ)
- 2 所在地及び土地所有者 更埴市大字桑原字雁塚2893-6番地ほか
更埴市
- 3 原因及び事業者 公共事業=(仮称)市民公園建設
更埴市(生活環境課)
- 4 調査の内容 試掘調査(トレンチ26)
発掘調査(調査面積約3,000㎡)
- 5 調査期間 試掘調査 平成14年4月24日～5月8日
発掘調査 平成14年6月3日～8月29日
- 6 調査費用 8,101,689円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 8 種別・時期 散布地 縄文時代～中世
- 9 遺構・遺物 土坑 5基
溝 3基
出土遺物 土器片・石器 縄文時代～中世 コンテナ4箱



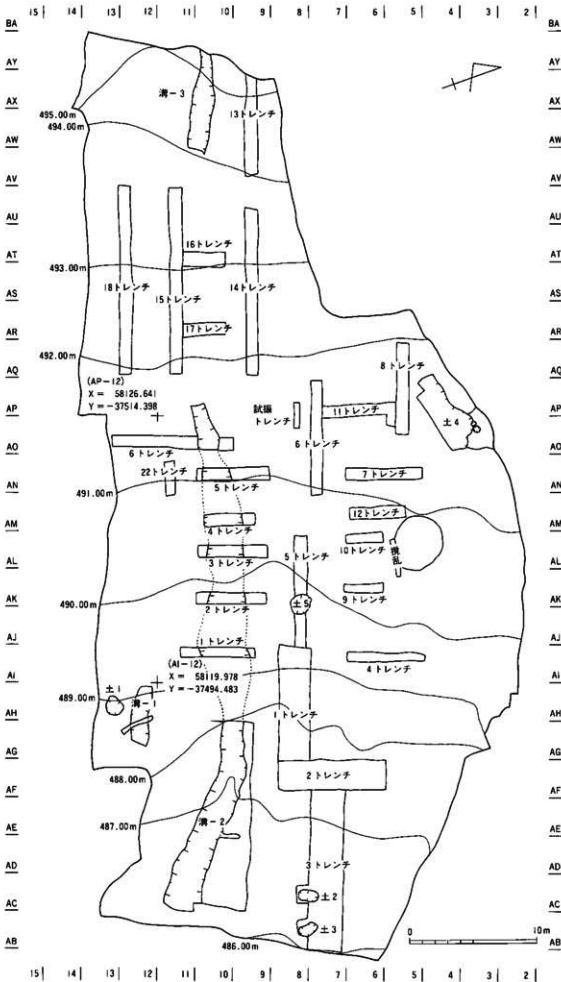
第3図 雁塚遺跡調査位置図(1:20,000)

II 調査の所見

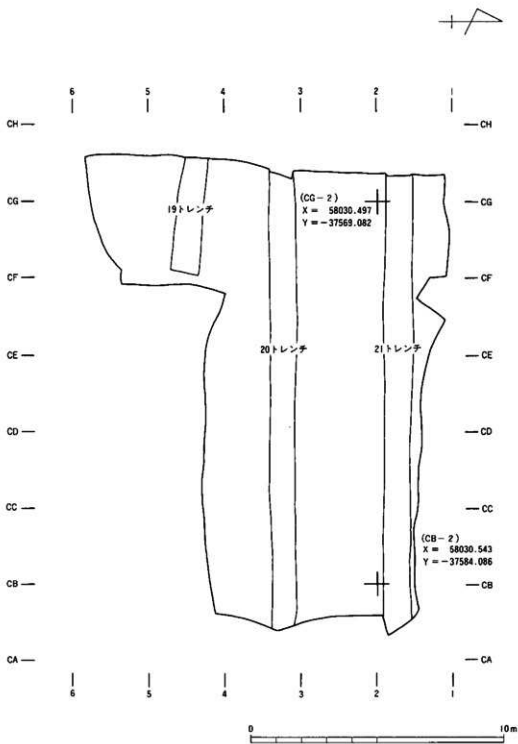
調査地周辺では、平成元年度に中央自動車道長野線建設に伴い(財)長野県埋蔵文化財センターが鳥林遺跡の発掘調査を実施し、縄文時代早期の土器片や平安時代の住居跡などが検出されている。調査地は鳥林遺跡とは柳沢川を挟んだすぐ南側の緩傾斜地であり、周知の埋蔵文化財包蔵地ではなかったが、事業実施に先立って試掘調査を実施した。その結果、埋蔵文化財が存在していることが確認されたため、文化財保護法第57条に基く遺跡発見通知をおこなった。

発掘調査は平成14年6月3日より開始した。試掘調査では縄文時代早期及び平安時代の遺物が出土していたため、当該期の遺構が検出されるものと想定して調査をおこなった。検出した遺構は土坑5基、溝3基などであり、遺構の密度は非常に希薄であった。遺構に伴って出土した遺物はほとんどなく、いずれの遺構もその時期については明らかではない。また、3号溝は自然流路と考えられるものであり、溝内からは平安時代の土器片が出土している。

出土した遺物は土器片・石器など出土量はわずかであったが、縄文時代から中世まで幅広い時代の遺物が出土している。特に縄文時代早期の遺物は市内では調査例が少なく、貴重な資料となった。



第4図 厩塚遺跡A地区全体図 (1:300)



第5図 雁塚遺跡C地区全体図 (1:100)



雁塚遺跡
A地区全景北半部



雁塚遺跡
A地区全景中央部



雁塚遺跡
A地区全景南半部



雁塚遺跡A地区2号溝
(南側より)



雁塚遺跡C地区全景
(南側より)



雁塚遺跡調査風景

2 城ノ内遺跡 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 屋代遺跡群城ノ内遺跡
(市台帳No31-7調査記号SRN6)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字屋代字城ノ内1351番地ほか
長野電子工業株式会社
- 3 原因及び
事業者 民間事業=工場建設
長野電子工業株式会社
- 4 調査の内容 発掘調査(調査面積約200㎡)
- 5 調査期間 発掘調査 平成14年7月5日～7月27日
整理作業 平成14年8月1日～
平成15年3月31日
- 6 調査費用 1,600,000円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 矢島宏雄
調査参加者 北澤三枝子 国光一穂 久保高久 黒田清男 近藤武三 篠田 弘
島田茂人 滝沢秀一 竹内より子 宮崎恵子
- 8 種別・時期 集落跡 弥生時代～中世
- 9 遺構・遺物 住居跡 古墳～平安時代 8棟
土坑 15基
ピット 16基
溝 2基
出土遺物 土器片 弥生時代～平安時代 コンテナ4箱



第6図 城ノ内遺跡調査位置図

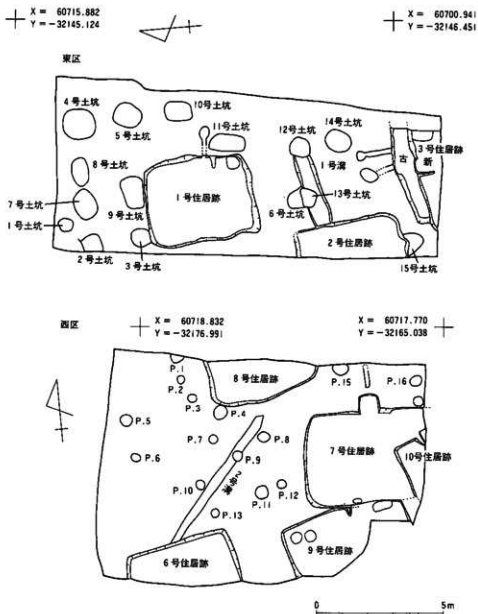
II 調査の経過

平成14年5月、長野電子工業株式会社より自社敷地内において工場の建設を計画しているとの連絡があった。当該地は屋代遺跡群城ノ内遺跡として周知されている埋蔵文化財包蔵地であり、過去に数回の発掘調査が実施され、埋蔵文化財が確認されていることから、事業の実施に当たってはその保護が必要を旨、報告をおこなった。6月に入り、事業者及び市教委において協議並びに試掘調査をおこなったところ、工事により埋蔵文化財が破壊される部分についてのみ発掘調査を実施することとなった。平成14年6月28日に文化財保護法第57条に基く届出が提出され、また平成14年7月1日に長野電子工業株式会社と更埴市長との間に埋蔵文化財発掘調査に関する委託契約が締結された。

7月5日より現場における調査を開始し、7月27日終了した。調査では古墳～平安時代の住居跡8棟などが検出された。8月1日より整理作業をおこない、平成15年3月31日、全ての業務が完了した。

調査日誌

- 7月5日 重機による表土剥ぎ開始。
- 7月8日 作業員入り発掘作業開始。調査機材搬入。
- 7月9日 住居跡検出、掘り下げを開始する。
- 7月11日 本日より西区の調査を開始する。
- 7月18日 実測作業開始。信濃毎日新聞取材。
- 7月22日 実測作業をおこなうと共に写真撮影実施。
- 7月23日 全体写真撮影。作業員、本日をもって終了。
- 7月26日 機材撤収。
- 7月27日 残っていた実測を終え、重機による埋め戻し完了。

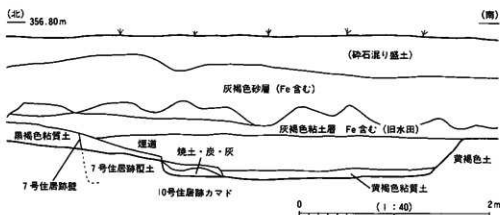


第7図 城ノ内遺跡全体図 (1:150)

III 遺構と遺物

基本層序 (第8図)

調査地周辺では、旧地表に約40cmの盛土をおこなっている。砕石混りの盛土の下には、灰褐色の砂層が約40cm堆積している。その下層は鉄分を含んだ灰褐色の粘土層となり、水田面であったものと考えられる。水田面の下層は黒褐色の粘質土となり、平安時代の遺構はこの層を掘り込んで構築されている。この黒褐色土層は弥生時代中期から平安時代の遺物包含層となっている。黒褐色土の下層は黄褐色土となり、無遺物層となる。



第8図 城ノ内遺跡基本層序

1号住居跡 (第9・10図)

位置：東区 規模：410cm×310cm 平面形：隅丸方形

主軸方向：N-90°-E 新旧関係：3号土坑より新

床面：ほぼ平坦であり、良く叩き締められていた。暗茶褐色粘質土を10cm程度貼ったものである。

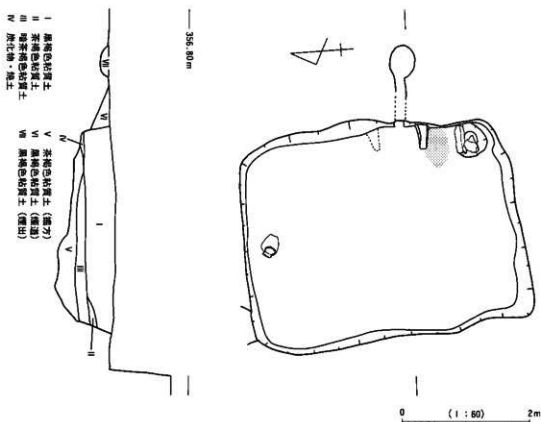
壁：北壁はほぼ垂直に掘り込まれているが、その他の壁の立ち上がりにはやや角度が認められる。最大壁高45cmを測ることができる。

カマド：東壁のやや南寄りから検出した。南側の袖は検出することができたが、北側の袖は住居跡掘り下げ時に破壊してしまい、痕跡のみの確認となってしまった。袖の南側には炭化物の拉がりが認められる。煙道は壁とほぼ直交して65cmほど延び、楕円形の煙出となる。

柱穴：主柱穴は検出できなかったが、南東隅より貯蔵穴と考えられるピットを検出した。

土層：大別して2層に分けることができる。I層は黒褐色の粘質土である。また、V層は掘方になるものと考えられる。

遺物：比較的まとまった量が出土している。1～4は土師器坏であり、いずれも内面黒色処理されている。また、1～3の底部には回転ヘラケズリ痕が認められる。5～11は須恵器坏であり、いずれも底部には回転糸切痕が残っている。12、13は土師器甕、14は須恵器甕である。



第9図 城内遺跡1号住居跡

3号住居跡(古) (第11・12図)

位置：東区 規模：不明 平面形：隅丸方形 主軸方向：N-10°-W

床面：住居跡の大半が3号住居跡(新)によって破壊されているため、検出した面積はわずかであるが、黄褐色粘質土を5cmほど貼った顕著な床であった。

壁：掘り込みにはやや角度が認められ、最大壁高45cmを測る。

カマド：北壁のほぼ中央付近と考えられる所より検出した。東側の袖は板状の石が立てられており、壁面が「コ」字状に掘り込まれていることから、燃焼部の幅は70cm程度と考えられる。煙道は70cm程延びて不整形の煙出となる。カマドの東隅からは煙道をもう1基検出していることから、カマドの造り替えがおこなわれたものと考えられる。

3号住居跡(新)

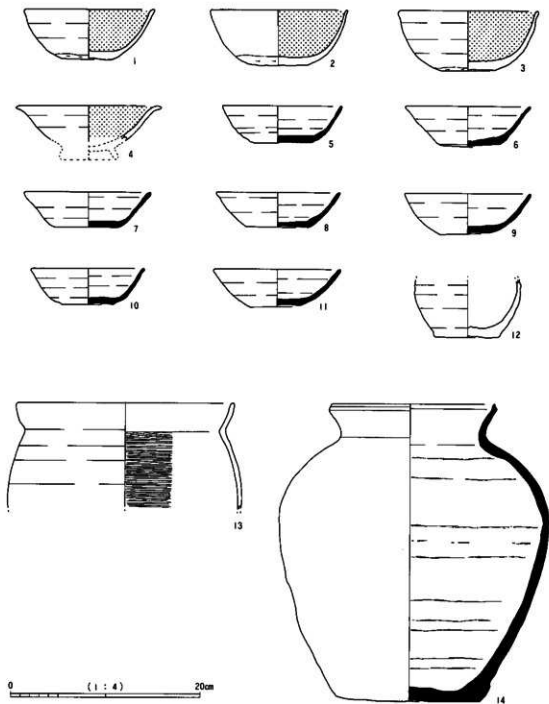
平面形：隅丸方形 主軸方向：N-10°-W

床面：住居跡の大半が調査区外となるため、検出した面積はわずかである。床面は黄褐色粘土を5cmほど貼って叩き締めた顕著な床であった。

壁：掘り込みは垂直に近く、最大壁高60cmを測る。

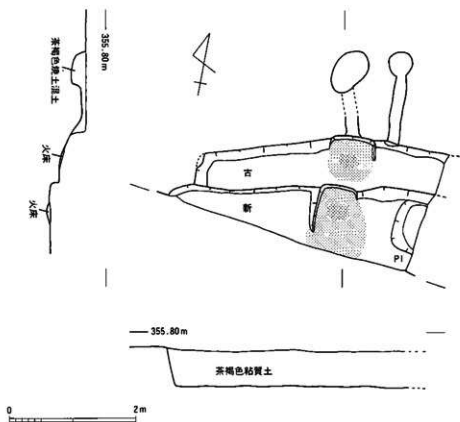
カマド：北壁から検出した。西側の袖は比較的良く残っており、長さは60cmほどを測ることができる。燃焼部の幅は50cmほどを測ることができ、そのほぼ中央からは良く焼けた楕円形の火床を検出した。

柱穴：検出面積がわずかであったため主柱穴は検出できなかったが、カマドの東側より貯蔵穴と考えられるピットを1基検出している。

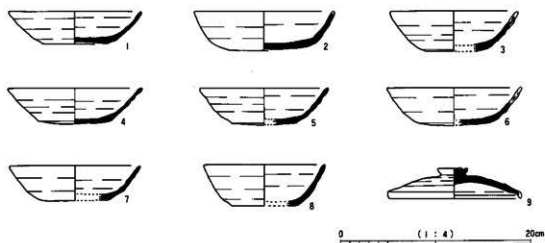


第10図 城ノ内遺跡1号住居跡出土遺物

遺物：2棟の住居跡が重なるように検出されたため、出土遺物がどちらの住居跡に属するのかわかりとしない。また、出土量も比較的少ない。1～8は須恵器坏である。8のみ底部に回転糸切痕を残している。1の底部はヘラ切り、2～7の底部は切り離し後ヘラケズリが施されている。9は須恵器坏蓋であり、外面の2/3ほどを回転ヘラケズリしている。完形品であるが歪みが大きい。また、色調はセピア色をしている。



第11図 城内遺跡3号住居跡



第12図 城内遺跡3号住居跡出土遺物

7号住居跡 (第13図)

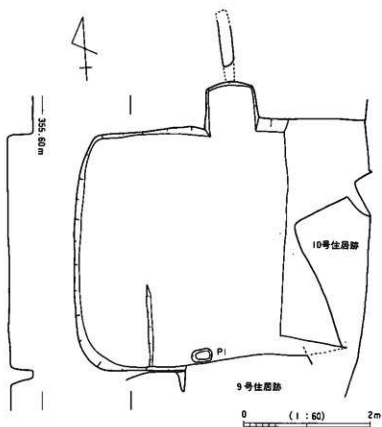
位置：西区 規模：380cm× 平面形：隅九方形 主軸方向：N

新旧関係：10号住居跡より古、9号住居跡より新

床面：黄褐色粘土を貼った非常に良く叩き締められた床であった。

壁：掘り込みは垂直に近く、最大壁高40cmを測る。

カマド：北壁から検出しており、カマド本体が住居跡の壁面から突出している。煙道は壁面にはほぼ直交して110cmほど延びて調査区外へと続いている。



第13図 城ノ内遺跡7号住居跡

9号住居跡 (第14・15図)

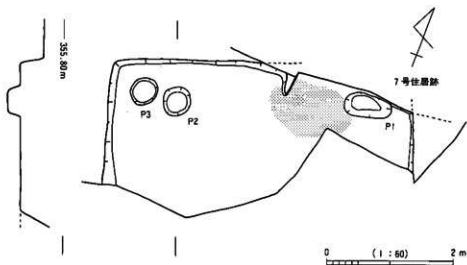
位置：西区 規模：490cm× 平面形：隅丸方形 主軸方向：N-20°-W

新旧関係：7号住居跡より古

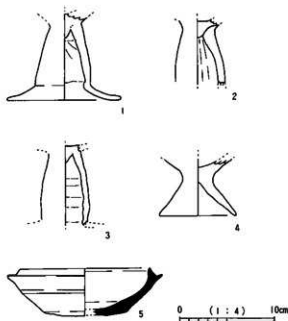
床面：黄褐色粘土を貼った非常に良く叩き締められた床であった。

壁：掘り込みは垂直に近く、最大壁高40cmを測る。

カマド：北壁から検出したが、大部分を7号住居跡によって破壊されている。西側の袖の一部と火床を検出しており、周囲には炭化物の拡がりが見られる。



第14図 城ノ内遺跡9号住居跡



第15図 城ノ内遺跡9号住居跡出土遺物

柱 穴：住居跡内より3基のピットを検出しているが、いずれも掘り込みは浅く、主柱穴になるものか定かではない。

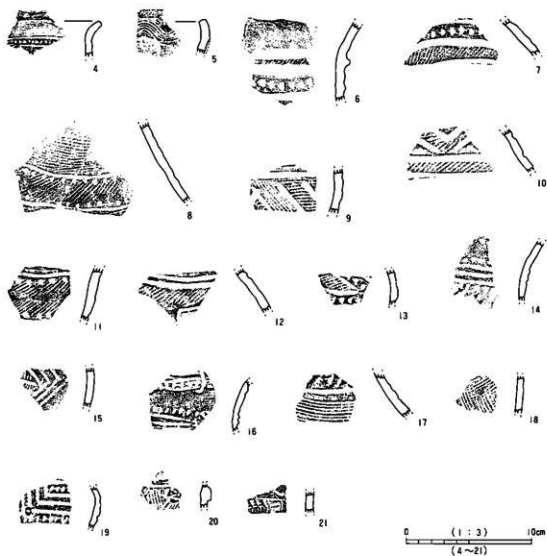
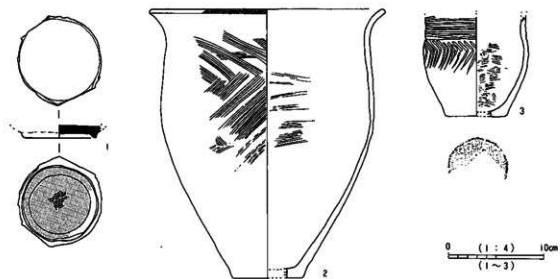
遺 物：出土遺物は非常に少ない。1～3は土師器高環の脚部である。1は円錐に近い筒形の脚部から底部が大きく開く形態をしている。また、外面にはヘラミガキが施されている。2、3は筒形の脚部であり、外面にはヘラミガキが施されている。4は土師器の高環又は台付甕の脚部と考えられる。5は須恵器環である。口縁部は短く内傾し、端部は丸く仕上げられている。外面は1/2程度を回転ヘラケズリし、底部は手持ちヘラケズリをしている。

その他の遺物 (第16図)

1は6号住居跡より出土した須恵器環の転用碗である。体部への立ち上がり部分をほぼ水平に打ち欠き、高台の付いた裏面を硯面としている。硯面には朱墨が付着している。

2～21はいずれも弥生時代中期の土器であり、いずれも検出面からの出土である。2は西区より出土した変形の土器であり、口縁部は短く外反し口唇部には縄文が施されている。体部外面には櫛描羽状文が、内面には横ハケが施されている。3は西区から出土した小形の変形土器である。頸部のくびれは緩やかであり、横方向の沈線が施されている。また、体部外面には沈線による羽状文が施されており、底部には非常に細かい網状底が残っている。4、5は変形土器の口縁部である。4の口縁部は緩く外反し、口唇部には縄文が施されている。また外面には半截竹管による刺突文が認められる。5の口縁部は内湾し、口唇部には縄文が施されている。6～17は変形土器の破片と考えられる。6は頸部の破片であり、突帯の端部には縄文が施されている。7、8、11、14には横方向の沈線及び半截竹管による刺突が認められる。9、10には斜位の沈線が認められる。13、15は体部の破片と考えられ、いずれも沈線による楕円形の区画が施されているものと考えられる。18は変形土器の体部片と考えられ、櫛描羽状文が認められる。19は台付甕の体部片と考えられ、「コ」の字重ね文と考えられる沈線が認められる。20は変形土器の体部と考えられ、ボタン状突起の貼り付けが認められる。

これらの土器片はいずれも弥生時代中期、栗林式土器になるものと考えられる。調査区内からは遺構の検出こそできなかったものの、当該期の土器片がこの他にも比較的多量に出土している。これまでに実施してきた城ノ内遺跡の調査では、当該期の土器片や鞆面付土器が出土した土坑墓などが検出されており、また隣接する荒井遺跡の調査では住居跡も検出されている。これらのことから、調査地周辺においても当該期の遺構が存在していた可能性が指摘できる。



第16図 城ノ内遺跡その他の遺物

IV まとめ

城ノ内遺跡はこれまでに何度も発掘調査がおこなわれ、多くの遺構や遺物が出土している。また、「城ノ内」の字名がしめすとおり、中世には居館があったとされ、一辺100mほどの方形区画を持つ溝が確認されている。本調査における調査面積は、東西両調査区を合せて約200㎡というわずかなものであったが、これまでの調査成果を裏付ける結果を得ることができた。以下、今回の調査で注目された点についてふれ、まとめとしたい。

屋代遺跡群は、千曲川右岸の自然堤防上に営まれた更埴市最大の集落遺跡であり、城ノ内遺跡もこの中に含まれている。過去の調査により、屋代遺跡群からは縄文時代中期初頭から中世に至るまで多数の遺構が検出されている。特に大形の掘立柱建物跡や、木簡の出土から周辺に初期国府や官衙の存在が想定されており、屋代遺跡群の重要性は日毎に増している。

今回の調査では、遺構の検出こそできなかったものの、弥生時代中期の土器片が比較的まとまった量出土している。平成2年に実施した発掘調査では、当該期の土坑が検出されており、また、南側に隣接する荒井遺跡では住居跡も検出されている。出土した土器片の中には粟林式以前と考えられるものも出土しているため、調査地周辺は弥生時代中期前半にはすでに居住域としての使用がおこなわれていたものと考えられる。

住居跡は8棟検出しているが、このうち古墳時代の住居跡は1棟だけであり、住居跡の中心は平安時代となる。これまでの城ノ内遺跡の調査では古墳時代の住居跡が主体的に検出されていたため、驚きである。ただし、調査地点は城ノ内遺跡の東端部に位置しており、隣接する大境遺跡からは多くの平安時代住居跡が検出されていることから、大境遺跡の様相を色濃く反映しているものと考えられる。6号住居跡からは朱墨硯が出土している。屋代遺跡群内からは硯や墨書土器など、文字関係の遺物が比較的多く出土しており、識字者がある程度まとまった集団として居住していたものと考えられる。また、朱墨硯などの用途が限られる遺物の存在から、官衙との関連を窺うことができる。ただ、文字関係の遺物が出土した住居跡などの遺構は、出土していない他の遺構とは構造・規模などに大きな違いは認められないため、識字者の居住域を断定することは難しく、今後の課題として残っている。

東区の調査では掘立柱建物跡の一部と考えられる柱穴を検出している。全て土坑として取り扱っているが、土層断面には柱痕を残しているものがあり、建物跡になると考えられる。柱掘方は一辺が1m余の方形を基本とするものであり、掘立柱建物跡としてはかなり大形のものになると考えられるが、調査範囲が狭かったことに加え、他の遺構と重複関係にあるため、規模などを確認することはできなかった。大形の掘立柱建物跡が集中的に検出されると官衙遺構との関連が濃厚となり、興味深いものとなるであろう。

最後に、本調査にあたり関係の皆さんのご協力に深く感謝申し上げます、まとめとします。



城ノ内遺跡東区全景
(南側より)



城ノ内遺跡西区全景
(南側より)



城ノ内遺跡1号住居跡
(西側より)



城ノ内遺跡3号住居跡
(東側より)



城ノ内遺跡7号住居跡
(南側より)



城ノ内遺跡調査風景



1



2



4



5



6



7



8



11



14

3号住居跡出土遺物



1



2



3



9

9号住居跡出土遺物



4



5



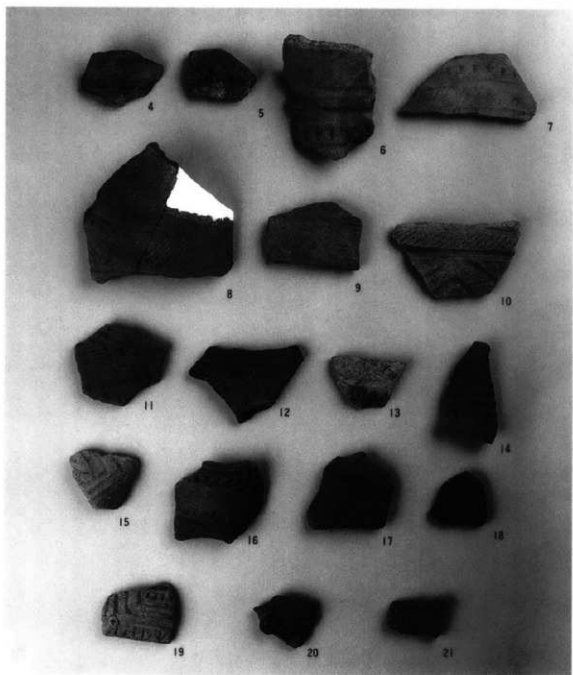
1



2



3



3 五量眼塚古墳 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 ごりょうがんづか
五量眼塚古墳
(市台帳No42調査記号 GRK1)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字土口字北山752-2番地ほか
個人
- 3 原因及び
事業者 更埴市教育委員会 生涯学習課
森将軍塚古墳館
- 4 調査の内容 墳丘測量
発掘調査 (調査面積約100㎡)
- 5 調査期間 平成14年8月26日～9月14日
- 6 調査費用 2,500,000円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
調査指導 岩崎卓也 松戸市立博物館長
木下正史 東京学芸大学教授
担当者 佐藤信之
調査参加者 東京学芸大学院生・学部生
及び協力者 長野市教育委員会
土屋 稔 長野県埋蔵文化財センター
- 8 種別・時期 古墳 古墳時代
- 9 遺構・遺物 円墳 直径約38m
遺物 埴輪片 (わずかに土器含む) コンテナ2箱



第17図 五量眼塚古墳調査位置図
(1 : 20,000)

II 調査の所見

更埴市内にある多数の古墳の保存と活用を目的として、平成14年度から平成18年度の計画で、国庫補助事業として着手し、今年度は長野市と更埴市の境に位置する五量眼塚古墳の調査を実施した。

調査は、古墳周辺の地形を含めた墳丘の測量を主体とし、埋葬施設と規模確認のために墳頂部と墳頂から裾に伸びる4本のトレンチを設定した。墳頂部には長径6.5m以上の盗掘坑があり、主体部を確認することはできなかったが、円筒埴輪・朝顔形埴輪と形象埴輪の可能性のある破片などがわずかに出土している。墳丘はほぼN-65°-Wに長軸を持つ長径38m、短径35mほどの2段築成の円墳で、高さは東側6m、西側で4mを測る。また、南東部には突出部を持つものと思われる。上段部は裾に幅30cm前後の角礫を並べ、葦石で覆われていた。墳丘裾部は崩落が激しく明確ではないが、同様の状態であったものと思われる。出土量は少ないが中段テラス面からも埴輪の出土があり、埴輪の樹立が考えられる。また、周辺には旗塚と呼ばれる盛土があり、古墳との関係が注目される。



五量眼塚古墳全景
(東側より)



五量眼塚古墳
2トレンチ



五量眼塚古墳
調査風景

4 屋代清水遺跡 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 おしろしみず
屋代清水遺跡
(市台帳No.29-1調査記号 YSM5)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字屋代字清水276-6番地ほか
長野県
- 3 原因及び
事業者 公共事業＝水路建設
更埴市(農林課)
- 4 調査の内容 発掘調査(調査面積約100㎡)
- 5 調査期間 平成14年9月17日～10月17日
- 6 調査費用 1,197,888円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 8 種別・時期 墳墓跡 縄文時代晩期～弥生時代中期
水田跡 平安時代～中世
- 9 遺構・遺物 土坑 29基
ピット 34基
溝 3基
水田面 2面
出土遺物 土器片・石器 縄文時代～平安時代 コンテナ3箱



第18図 屋代清水遺跡調査位置図

II 調査の所見

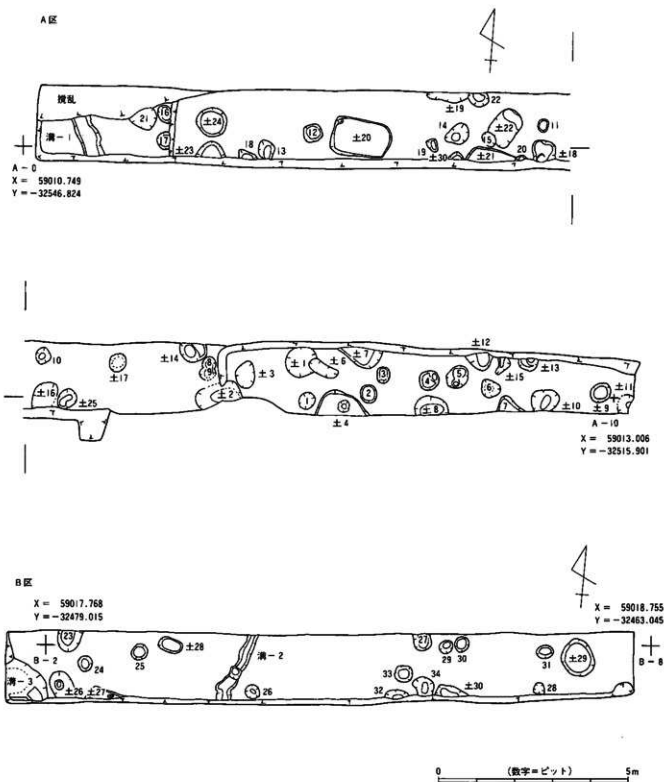
調査地は、平成13年度に科野の里ゲートボール場建設に伴い実施した発掘調査地点に隣接する。平成13年度の調査では弥生時代前期を中心とした再葬墓や、黥面付土器・土偶が出土したことから、本調査地点においても同様の遺構・遺物が検出されるものと想定して調査をおこなった。

調査は水路建設に伴うものであったため、調査区の幅は2m程度と非常に限られたものとなった。検出した遺構は土坑29基、水田面2面などであり、水田面は平安時代～中世、その他の遺構は弥生時代を中心としたものと考えられる。土坑の覆土中からは骨粉が出土しているものも認められることから、再葬墓が含まれているものと考えられる。調査地の土層断面は第20図に示したとおりであり、現耕作土の下層約25cm及び40cmから水田面と考えられる層序を確認した。下位の水田面は平安時代のもので考えられ、この層の直上にはわずかに砂層が堆積している部分もある。この水田面の直下は黒色土となり、遺物を多量に含んだ包含層となる。遺構の覆土はこの黒色土である。

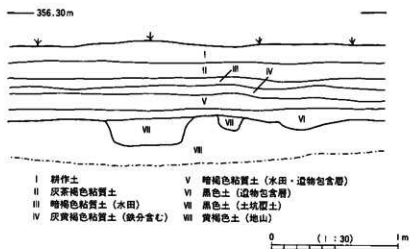
出土遺物は縄文時代晩期～弥生時代中期を中心とした土器片などである。第21図2は平安時代水田面から出土した須恵器環である。1は7号土坑から出土した壺形土器であり、外面には縄文が認められる。3は20号土坑から出土した鉢形土器である。4は3号土坑から出土した土偶の体部であり、表

面には乳房表現が認められる。

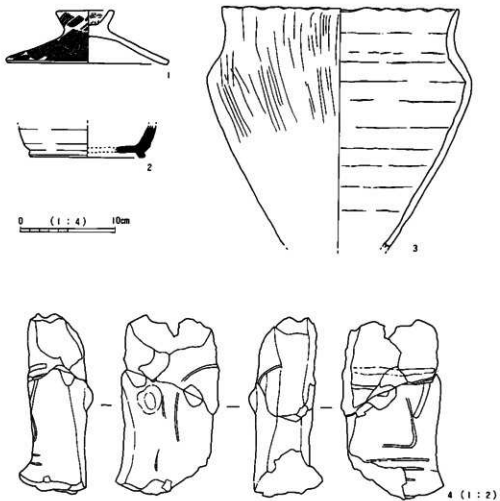
調査は平成15年度以降も継続して実施する予定であり、全線の調査完了時に報告書が刊行される予定である。



第19図 屋代清水遺跡全体図 (1:100)



第20図 歷代清水遺跡土層断面



第21図 歷代清水遺跡出土遺物



屋代清水道跡A区東半部全景
(西側より)



屋代清水道跡A区西半部全景
(西側より)



屋代清水遺跡B区全景
(西側より)



屋代清水遺跡20号土坑



左上：7号土坑出土遺物
左下：3号土坑出土遺物
右：20号土坑出土遺物

5 屋代清水遺跡 整理調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 屋代清水遺跡（市台帳No29-1）
- 2 所在地及び 更埴市大字屋代清水260番地
土地所有者 更埴市土地開発公社
- 3 原因及び 公共事業＝屋内ゲートボール場建設
事業者 更埴市（体育課）
- 4 調査の内容 整理調査
- 5 調査期間 平成14年6月3日～平成15年3月28日
- 6 調査費用 851,562円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 8 種別・時期 墳墓跡 縄文時代晩期～弥生時代中期
水田跡 平安時代～中世

II 調査の所見

発掘調査は平成13年度に科野の里ゲートボール場建設に伴って実施したものである。調査では弥生時代前期を中心とした土坑が70基余検出されており、の中には土器棺再葬墓も含まれている。今年度は調査により出土した遺物の整理作業及び報告書作成をおこなった。

検出した土坑の内、覆土から炭化物や骨粉が出土したものは20基余となり、また、土器棺再葬墓として確実と考えられるものは7基を数えることができる。これらのことから、調査区域内で検出された土坑の内、再葬墓の可能性が高いと考えられるものは30基を超えるものと考えられる。

出土遺物の中で特に注目されるものとして、黒面付土器・土偶がある。今回の調査により出土したものは15点を数えることができる。また、平成3年度に実施した県立歴史館建設に伴う発掘調査及び、平成14年度に実施した発掘調査においても出土しており、屋代清水遺跡でこれまでに出土した黒面付土器・土偶の出土数は20点となる。

更埴市内においては、当該期の再葬墓としては城ノ内遺跡でわずかに検出されていただけであり、これほどまとまった墓域が調査された例は初めてである。屋代清水遺跡では、平成15年度以降も継続して発掘調査が計画されており、新たな調査成果が期待される。また、平成14年9月～11月にかけて、飯田市上郷考古博物館企画展示に出土遺物の一部を貸出・展示した。

科野の里ゲートボール場建設に伴う発掘調査は本年度をもって完了し、「屋代清水遺跡II」として報告書が刊行される。



屋代清水遺跡
1号土坑出土遺物



屋代清水遺跡
55号土坑出土遺物



屋代清水遺跡出土
髹面付土器・髹面土偶

6 大塚遺跡 整理調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 大塚遺跡(市台帳№31-1)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
更埴市大字屋代字大塚810番地
- 3 原因及び
事業者 更埴市(教育総務課)
公共事業=屋代中学校体育館建設
- 4 調査の内容 整理調査
- 5 調査期間 平成15年1月31日～3月28日
- 6 調査費用 233,100円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 8 種別・時期 水田跡 平安時代～中世

II 調査の所見

大塚遺跡では平成9～11年に屋代中学校の校舎改築に伴い、また、平成12年には耐震性貯水槽建設に伴う調査がおこなわれている。今年度は、平成13年度に実施した屋代中学校体育館建設に伴う発掘調査の整理作業をおこなった。

検出した遺構は厚い洪水砂に覆われた水田面及び畦畔8条である。調査区内を東西に貫く1号畦畔は、最大幅2mを測る大きなものであり、周辺の調査から導き出される更埴条里水田址の条里地割に合致するものであった。自然科学分析の結果によると、この水田面の下層からもプラントオパール密度のピークが確認されており、平安時代以前の水田面が存在していた可能性が指摘されているが、この層序からの出土遺物はなく、その時期を推定することはできなかった。

整理作業は本年度をもって完了し、「大塚遺跡Ⅲ」として報告書が刊行される。

7 田端遺跡隣接地 試掘調査

I 調査の概要

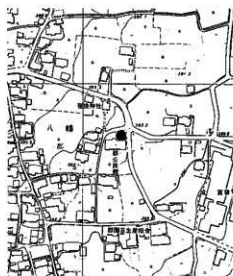
- 1 調査遺跡名 田端遺跡隣接地
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び
事業者 公共事業＝防火水槽建設
更埴市（消防本部）
- 4 調査の内容 試掘調査
- 5 調査期間 平成14年8月12日
- 6 調査費用 重機負担
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 8 種別・時期 集落跡 奈良時代～平安時代
- 9 遺構・遺物 なし

II 調査の所見

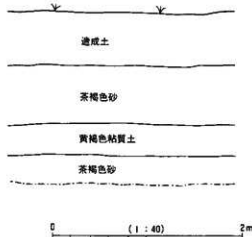
調査は防火水槽建設に伴うものであり、周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、田端遺跡に隣接しているため、工事の実施に併せて遺構・遺物の有無を確認するため、試掘調査をおこなった。

約30cmの造成土の下には、黄褐色の砂質土と粘質土が交互に堆積しており、現地表下約90cmまで掘り下げたが、遺構・遺物は確認されなかった。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、工事が実施された。遺跡の範囲は当該地周辺までは及んでいないものと考えられる。



第22図 田端遺跡隣接地調査位置図



第23図 田端遺跡隣接地土層断面

8 大池南遺跡 試掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 おおいけみなみ
大池南遺跡
(市台帳No45-1調査記号 OIM2)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び
事業者 公共事業=大池市民の森整備事業
更埴市(農林課)
- 4 調査の内容 試掘及び確認調査(トレンチ7)
- 5 調査期間 平成14年10月29日~11月1日
- 6 調査費用 414,726円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
調査参加者 国光一穂 高野貞子
- 8 種別・時期 集落跡 縄文時代
- 9 遺構・遺物 土器片・黒曜石 縄文時代 10点



第24図 大池南遺跡調査位置図

II 調査の経過

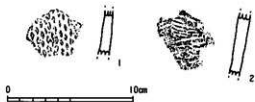
平成14年4月19日、更埴市経済部農林課発注の平成13年度大池市民の森整備事業において、周知の埋蔵文化財包蔵地内で文化財保護法第57条に基き通知がなされないまま、工事が行われていたことが発覚した。市教育委員会では直ちに現地を確認したところ、工事がおこなわれた地点において土器片を採集し、遺跡が破壊されていることを確認した。

4月20日、農林課及び市教委の間で、今後の対応について協議をおこなった。その結果、遺跡が破壊されたと考えられる範囲について、その状況を確認するための調査を実施することとし、また、平成14年度以降も事業が計画されているため、確認調査に併せて試掘調査をおこなうこととした。調査時期については、5月以降、(仮)市民公園建設に伴う発掘調査が予定されていたこと及び、平成14年度に予定されている事業の実施に伴う試掘・立会調査に合わせるため、秋口におこなうこととした。また、今後このようなことが起こらないよう、事業の実施に当たっては市教委と連絡を密におこなうよう要請をおこなった。

平成14年10月29日より、現地における調査を開始した。破壊範囲の確認調査地点については重機によりトレンチを掘削し、破壊状況の確認をおこなった。また、将来事業が計画されている地点の試掘調査については、人力掘削によりトレンチ調査をおこなった。11月1日、現地における調査を終了し、破壊範囲の推定をおこなった。その結果、工事がおこなわれた広範囲に渡って遺跡が破壊されていることが考えられたが、部分的に遺跡が残されている地点もあった。また、試掘調査地点については、埋蔵文化財包蔵層が存在していることが確認された。



第25図 大池南遺跡調査区配置図 (1 : 1,000)



第26図 大池南遺跡出土遺物

III 調査の所見

調査は破壊範囲の確認（1～4トレンチ）及び将来、事業が計画されている地点における埋蔵文化財の確認（5～7トレンチ）をおこなうために実施した。1～3トレンチについては表土下はすぐに地山層となっており、埋蔵文化財

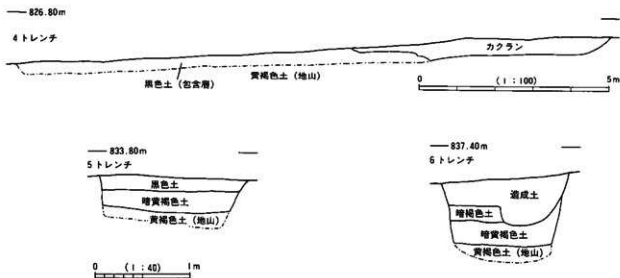
は確認されなかった。また、4トレンチでは南側の一部を除いて包含層と考えられる黒色土の堆積を確認し、黒曜石片が出土した。これらのことから、工事がおこなわれた地点においては部分的に埋蔵文化財は残っているものの、かなり広い範囲に渡って破壊がおこなわれたものと考えられる。

5～7トレンチにおいてはいずれも埋蔵文化財包含層と考えられる層層を確認しており、5トレンチからは土器片が出土している。第26図はいずれも5トレンチから出土した縄文土器片である。1は楕四角押型文、2は山型押型文が認められる。

IV まとめ

調査地周辺では更城市史刊行事業などに伴って部分的な発掘調査が実施されており、縄文時代前期を中心とした土器片などが出土している。今回の調査で出土した遺物は非常に少なかったが、土器片には押型文が認められることから縄文時代早期末のものと考えられる。市内で当該期の遺物が確認されている遺跡は限られており、工事によって破壊されてしまったことは非常に残念である。

調査により埋蔵文化財が確認されたことから、今後、事業の実施に当たっては当該埋蔵文化財の保護措置が必要である。



第27図 大池南遺跡土層断面



大池南遺跡1 トレンナ全景
(南東側より)



大池南遺跡2 トレンナ全景
(北西側より)



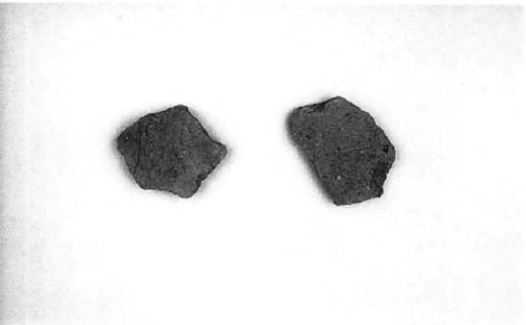
大池南遺跡3 トレンナ全景
(南東側より)



大池南遺跡4トレンチ全景
(北西側より)



大池南遺跡5トレンチ全景
(南側より)



大池南遺跡出土遺物

9 小島遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 ● 小島遺跡(市台帳No206)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び
事業者 更埴市(建設課)
- 4 調査期間 平成14年5月10日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 集落跡 古墳時代～平安時代
- 7 遺構・遺物 なし



第28図 小島遺跡調査位置図

II 調査の所見

工事による掘削は60cmほどであり、遺構・遺物は確認できなかった。

10 屋代城跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 ● 屋代城跡(市台帳No183)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び
事業者 更埴市(建設課)
- 4 調査期間 平成14年5月22日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 城館跡 中世
- 7 遺構・遺物 なし



第29図 屋代城跡調査位置図

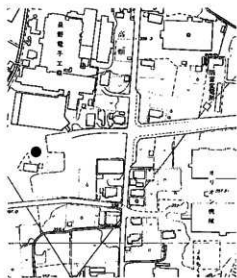
II 調査の所見

工事による掘削は100cmほどであり、160cmまで掘り下げたが遺構・遺物は確認できなかった。

11 松ヶ崎遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 おおいけ 松ヶ崎遺跡(市台帳No.31-6)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字屋代字松ヶ崎1208-1番地ほか
長野電子工業㈱
- 3 原因及び
事業者 民間事業＝仮設工場建設
長野電子工業㈱
- 4 調査期間 平成14年7月2日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 矢島宏雄
- 6 種別・時期 集落跡 弥生時代～中世
- 7 遺構・遺物 なし



第30図 松ヶ崎遺跡調査位置図

II 調査の所見

工事による掘削は55cmほどであり、遺構・遺物は確認できなかった。

12 大池南遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 おおいけみなみ 大池南遺跡(市台帳No.45-1)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
更埴市
- 3 原因及び
事業者 公共事業＝屋外炊事場建設
更埴市(生涯学習課)
- 4 調査期間 平成14年7月5日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 集落跡 縄文時代
- 7 遺構・遺物 なし



第31図 大池南遺跡調査位置図

II 調査の所見

工事による掘削は60cmほどであったが、掘削は建物の基礎部分だけであり、遺構・遺物は確認できなかった。

13 大塚遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 大塚遺跡(市台帳No.173)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び
事業者 更埴市(建設課)
- 4 調査期間 平成14年7月15日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 集落跡ほか 縄文時代～中世
- 7 遺構・遺物 なし



第32図 大塚遺跡調査位置図

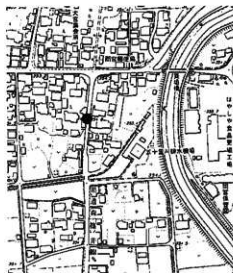
II 調査の所見

工事による掘削は40cmほどであり、遺構・遺物は確認できなかった。

14 大宮遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 歴代遺跡群大宮遺跡(市台帳No.31-20)
- 2 所在地及び
土地所有者 長野県
- 3 原因及び
事業者 更埴建設事務所
- 4 調査期間 平成14年8月1日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 集落跡 弥生時代～平安時代
- 7 遺構・遺物 なし



第33図 大宮遺跡調査位置図

II 調査の所見

工事による掘削は80cmほどであったが、遺構・遺物は確認できなかった。

15 屋代清水遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 屋代清水遺跡(市台帳No.29-1)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字屋代字清水272-2番地
長野県ほか
- 3 原因及び
事業者 公共事業＝水道敷設
更埴市(体育課)
- 4 調査期間 平成14年8月19日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 集落跡ほか 縄文時代～中世
- 7 遺構・遺物 包含層1面



第34図 屋代清水遺跡調査位置図

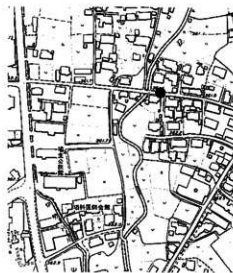
II 調査の所見

工事による掘削は130cmほどであり、100cmの所から包含層と考えられる黒色土を検出したが、遺構・遺物は確認できなかった。

16 武台遺跡隣接地 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 武台遺跡隣接地(市台帳No.168)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び
事業者 公共事業＝水路建設
更埴市(建設課)
- 4 調査期間 平成14年8月23日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 集落跡 奈良時代～平安時代
- 7 遺構・遺物 なし



第35図 武台遺跡隣接地調査位置図

II 調査の所見

工事による掘削は80cmほどであり、遺構・遺物は確認できなかった。

17 更埴条里水田址 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 こうしやくじょうりすいでんし
更埴条里水田址(市台帳No29)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び
事業者 更埴市(建設課)
- 4 調査期間 平成14年9月13日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 水田跡 平安時代～中世
- 7 遺構・遺物 なし



第36図 更埴条里水田址調査位置図

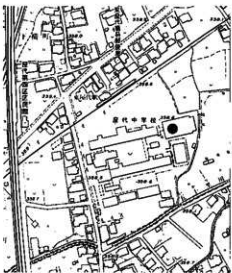
II 調査の所見

工事による掘削は40cmほどであり、遺構・遺物は確認できなかった。

18 大塚遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 おほつか
屋代遺跡群大塚遺跡(市台帳No31-1)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び
事業者 更埴市(教育総務課)
- 4 調査期間 平成14年9月13日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 集落跡ほか 古墳時代～中世
- 7 遺構・遺物 なし



第37図 大塚遺跡調査位置図

II 調査の所見

工事は盛土によるハンドボールコートの造成であり下部への掘り込みはなかった。

19 更埴条里水田址 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 カシノノサトノミヅノカシ 更埴 条里水田址(市台帳No29)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字屋代字内田
長野県
- 3 原因及び
事業者 公共事業=歩道建設
更埴建設事務所
- 4 調査期間 平成14年9月20日、11月13日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 水田跡 平安時代~中世
- 7 遺構・遺物 なし



第38図 更埴条里水田址調査位置図

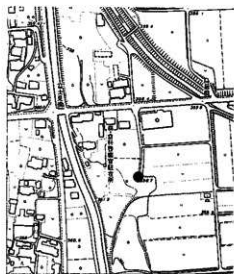
II 調査の所見

工事による掘削は40cmほどであり、遺構・遺物は確認できなかった。

20 倉科水田址 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 クラダノミヅノカシ 倉科水田址(市台帳No.211-2)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
更埴市
- 3 原因及び
事業者 公共事業=道路建設
更埴市(建設課)
- 4 調査期間 平成14年10月19日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 水田跡 平安時代~中世
- 7 遺構・遺物 なし



第39図 倉科水田址調査位置図

II 調査の所見

工事による掘削は80cmほどであり、遺構・遺物は確認できなかった。

21 更埴条里水田址 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 こうしやくほりり かわいんし
更埴 条里水田址(市台帳No29)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び
事業者 更埴市(建設課)
- 4 調査期間 平成14年10月22日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 水田跡 平安時代~中世
- 7 遺構・遺物 なし



第40図 更埴条里水田址調査位置図

II 調査の所見

工事による掘削は30cmほどであり、遺構・遺物は確認できなかった。

22 大池南遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 おほいけみなみ
大池 南遺跡(市台帳No45-1)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び
事業者 更埴市(農林課)
- 4 調査期間 平成14年10月30日、31日、11月18日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 集落跡 縄文時代
- 7 遺構・遺物 なし



第41図 大池南遺跡調査位置図

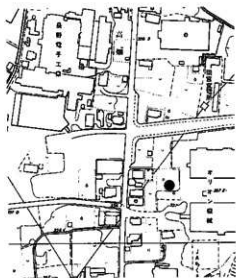
II 調査の所見

工事は木道を設置するものであり、掘削は20cmほどで遺構・遺物は確認できなかった。

23 大境遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 歴代遺跡群大境遺跡(市台帳No31-13)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字屋代字大境1284-1番地
オリオン機械㈱
- 3 原因及び
事業者 民間事業=倉庫建設
オリオン機械㈱
- 4 調査期間 平成14年10月31日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 集落跡 弥生時代~中世
- 7 遺構・遺物 なし



第42図 大境遺跡調査位置図

II 調査の所見

工事による掘削は50cmほどであり、遺構・遺物は確認できなかった。

24 稲荷山城跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 稲荷山城跡(市台帳No91)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
更埴市
- 3 原因及び
事業者 公共事業=水路建設
更埴市(建設課)
- 4 調査期間 平成14年11月6日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 城館跡 中世
- 7 遺構・遺物 なし



第43図 稲荷山城跡調査位置図

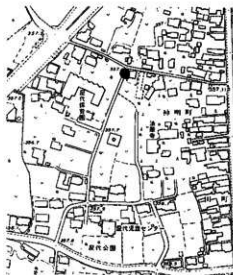
II 調査の所見

工事による掘削は20cmほどであり、遺構・遺物は確認できなかった。

25 中田島遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 粟佐遺跡群中田島遺跡
(市台帳No28-14)
- 2 所在地及び 更埴市大字粟佐字中田島
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び 公共事業=道路建設
事業者 更埴市(建設課)
- 4 調査期間 平成14年11月8日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 矢島宏雄
- 6 種別・時期 集落跡 古墳時代~平安時代
- 7 遺構・遺物 なし



第44図 中田島遺跡調査位置図

II 調査の所見

工事による掘削は30cmほどであり、遺構・遺物は確認できなかった。

26 武水別神社遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 武水別神社遺跡(市台帳No213)
- 2 所在地及び 更埴市大字八幡字社地3333-1番地
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び 公共事業=水路建設
事業者 更埴市(商工観光課)
- 4 調査期間 平成14年11月18日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 社寺跡 中世~近世
- 7 遺構・遺物 なし



第45図 武水別神社遺跡調査位置図

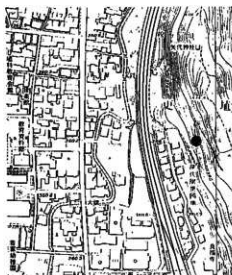
II 調査の所見

工事は現況の水路を改修するものであり、遺構・遺物は確認できなかった。

27 屋代城跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 屋代城跡(市台帳No183)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字小島
長野県
- 3 原因及び
事業者 公共事業=急傾斜地崩壊対策事業
更埴建設事務所
- 4 調査期間 平成14年11月18日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 城館跡 中世
- 7 遺構・遺物 なし



第46図 屋代城跡調査位置図

II 調査の所見

工事は表土をわずかに削っただけであり、遺構・遺物は確認できなかった。

28 屋代清水遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 屋代清水遺跡(市台帳No29-1)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字屋代字清水276-1番地
個人
- 3 原因及び
事業者 公共事業=駐車場造成
更埴市(体育課)
- 4 調査期間 平成14年12月3日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 集落跡ほか 縄文時代~中世
- 7 遺構・遺物 なし



第47図 屋代清水遺跡調査位置図

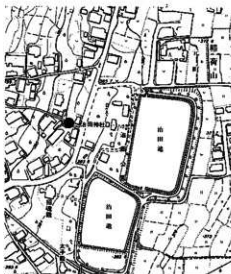
II 調査の所見

工事は盛土による駐車場の造成であり、下部への掘り下げはなかった。

29 小坂東遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 こさかひがし 小坂東遺跡(市台帳No94)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び
事業者 更埴市(建設課)
- 4 調査期間 平成14年12月3日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 集落跡 弥生時代～平安時代
- 7 遺構・遺物 なし



第48図 小坂東遺跡調査位置図

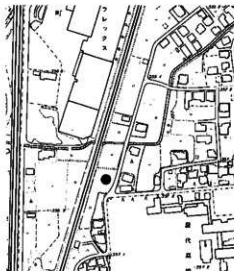
II 調査の所見

工事による掘削は40cmほどであり、遺構・遺物は確認できなかった。

30 地之目遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 ちのめ 屋代遺跡群地之目遺跡(市台帳No31-2)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び
事業者 更埴市(政策推進課)
- 4 調査期間 平成14年12月4日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 集落跡 奈良時代～平安時代
- 7 遺構・遺物 なし



第49図 地之目遺跡調査位置図

II 調査の所見

工事は盛土による駐車場の造成であり、下部への掘り下げはなかった。

31 坪山遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 ツバキ 坪山遺跡(市台帳No.112)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字八幡字坪山
長野県
- 3 原因及び
事業者 公共事業＝道路建設
長野地方事務所
- 4 調査期間 平成14年12月16日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 集落跡 縄文時代～平安時代
- 7 遺構・遺物 なし



第50図 坪山遺跡調査位置図

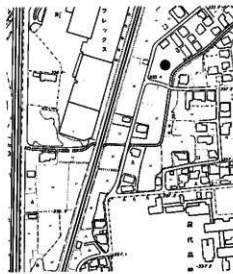
II 調査の所見

工事による掘削は20cmほどであり、遺構・遺物は確認できなかった。

32 一丁田尻遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 ヒメノ 屋代遺跡群一丁田尻遺跡
(市台帳No.31-3)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び
事業者 公共事業＝駐車場造成
更埴市(政策推進課)
- 4 調査期間 平成15年1月9日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 散布地 奈良時代～平安時代
- 7 遺構・遺物 なし



第51図 一丁田尻遺跡調査位置図

II 調査の所見

工事は盛土による駐車場の造成であり、下部への掘り込みはなかった。

33 五輪堂遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 あひき ごらんどう 粟佐遺跡群五輪堂遺跡(市台帳No28-1)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び
事業者 更埴市(建設課)
- 4 調査期間 平成15年1月14日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 集落跡 弥生時代～平安時代
- 7 遺構・遺物 なし



第52図 五輪堂遺跡調査位置図

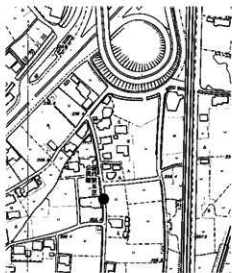
II 調査の所見

工事による掘削は40cmほどであり、遺構・遺物は確認できなかった。

34 一丁田遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 いちどうでん 屋代遺跡群一丁田遺跡
(市台帳No.31-9)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び
事業者 更埴市(建設課)
- 4 調査期間 平成15年1月17日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 矢島宏雄
- 6 種別・時期 集落跡 古墳時代～平安時代
- 7 遺構・遺物 なし



第53図 一丁田遺跡調査位置図

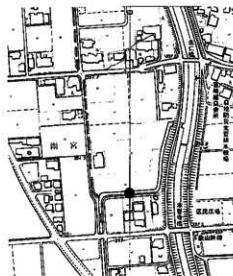
II 調査の所見

工事による掘削は30cmほどであり、遺構・遺物は確認できなかった。

35 生仁遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 屋代遺跡群生仁遺跡(市台帳No31-11)
- 2 所在地及び土地所有者 更埴市大字雨宮字生仁
長野県
- 3 原因及び事業者 公共事業＝県営ため池等整備事業
長野地方事務所
- 4 調査期間 平成15年1月23日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 集落跡 弥生時代～中世
- 7 遺構・遺物 なし



第54図 生仁遺跡調査位置図

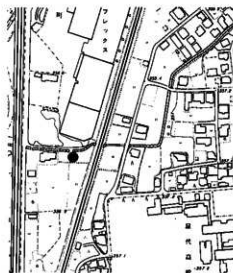
II 調査の所見

工事は現況水路の改修であり、300cmまで掘り下げたが、遺構・遺物は確認できなかった。

36 地之目遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 屋代遺跡群地之目遺跡(市台帳No31-2)
- 2 所在地及び土地所有者 更埴市大字屋代字新田
更埴市
- 3 原因及び事業者 公共事業＝駐車場造成
更埴市(政策推進課)
- 4 調査期間 平成15年1月23日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 集落跡 奈良時代～平安時代
- 7 遺構・遺物 なし



第55図 地之目遺跡調査位置図

II 調査の所見

工事は盛土による駐車場の造成であり、下部への掘り込みはなかった。

報告書抄録

ふりがな	へいせい14ねんど こうしょくしまいぞうふんかざいちょうさほうこくしょ							
書名	平成14年度 更埴市埋蔵文化財調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	小野紀男							
編集機関	更埴市教育委員会 生涯学習課 文化財係							
所在地	〒387-8511 長野県更埴市杭瀬下84番地 TEL 026-273-1111							
発行年月日	2003年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
城ノ内	長野県更埴市大字屋代字城ノ内1351番地	20216	31-7	36 32 48	138 8 26	20020705～ 20020727	200	長野電子工業株式会社建設に伴う発掘調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺跡		主な遺物		特記事項	
城ノ内	集落	古墳～平安	竪穴住居跡	8棟	土師器、須恵器			千曲川右岸の自然堤防上の集落遺跡
			土坑	15基				
			溝	3棟				
			ピット	16基				

平成14年度 更埴市埋蔵文化財調査報告書

発行日 平成15年 3月31日

発 行 更埴市教育委員会

〒387-8511 長野県更埴市杭瀬下84番地

電話 (026) 273-1111

印 刷 信毎書籍印刷株式会社

〒381-0037 長野県長野市西和田470

電話 (026) 243-2105
